

イとグンスの欲望を媒介する対象であることを逃れた。イソもまた、ドラマではセロイとの恋愛関係が強化され、セロイへの献身的な愛が印象付けられた。しかし彼女はスアと異なり、男性同士の関係性の中に「囚われの姫」として位置づけられはしなかったのである。だからこそ、イソというキャラクターは、ドラマ翻案において「普遍的」な物語と異性愛恋愛関係が強調されたにもかかわらず、ウェブトゥーン版以上に従来のジェンダー規範から逸脱的で自由にみえるキャラクターになったのではないだろうか。

以上をまとめておく。ウェブトゥーンからドラマへの翻案にあたって、確かに広い視聴者を意識した「英雄譚」に類

する「普遍的物語」化が目指されたことが分かった。また、現実的な女性像というよりは女性の「理想像」を描きだそうともされていた。この二つの方向性は、女性の表象という点で相互に矛盾する部分を含んでいた。そこで、男性主人公の「英雄譚」と、「理想像」としての女性キャラクターを両立させていくために、一人のヒロインは英雄譚のヒロインとして、もう一人のヒロインは「理想像」のための存在として切り分けられたといえるだろう。ドラマ「梨泰院クラス」は、ドラマというメディアが要求する性質を考慮しつつ、「普遍性」をめざし、かつそれにとどまらない翻案を成し遂げたといえるのではないだろうか。

### 引用文献:

#### (日本語)

- (1) 金イェジ2019「韓国初期日常トゥーンにおける青年世代のメランコリー表象」『マス・コミュニケーション研究』95 巻 p. 203-21
- (2) 山中千恵 2010「『たかがマンガ』を通して見える日韓社会とは」『第二期日韓歴史共同研究報告書(第3分科会篇)』日韓歴史共同研究委員会第3部第3章(大衆文化) p. 339- p. 359.
- (3) リンダ・ハッチオン 2012『アダプテーションの理論』晃洋書房
- (4) 朝日新聞朝刊(いちからわかる!)「韓流ブーム、また起きているの?」2020年8月11日朝刊、2面
- (5) 朝日新聞「韓流ドラマ再ブーム、世界を相手に「愛の不時着」・「梨泰院クラス」が牽引」2020年6月16日朝刊、27面
- (6) 稲田豊史 現代ビジネス「『梨泰院クラス』が「韓流嫌いの中年男性」にも響いた3つの理由」<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/74070>(最終確認2020年11月10日)
- (7) 週刊朝日2020年6月26日 大ブーム到来! ドハマリできる韓流ドラマ20 タイムスリップから社会派まで、“中毒者”続出のヒミツ